

世界リーディング・ユニバーシティに向けて

東北大学総長

井上 明久

東北大学は、1907年(明治40年)の建学以来、「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」の理念を掲げ、世界最高水準の研究・教育を創造してきました。本冊子では、本学の様々な取組の中でも2006年度における特筆すべき取組を紹介しています。

さて、いま人類社会は地球規模で克服すべき様々な複雑かつ困難な課題に直面しています。東北大学は100年という歴史の中で継承してきた知の蓄積と、絶えざる研究・教育の創造を通して、前途に横たわる諸課題に堂々と立ち向かう先導力となる決意をしています。

東北大学は本年3月に2007年度を初年度とする「井上プラン2007(東北大学アクションプラン)」をとりまとめました。このプランは人類社会への貢献という揺るぎなき姿勢をもって、教育、研究、社会貢献、キャンパス環境、組織・経営という5つの柱ごとに、「世界リーディング・ユニバーシティ」を目指した戦略実行プランを打ち出したものです。現在、東北大学では21世紀の学術をリードする研究者を育成する「国際高等研究教育機構」の創設、国際的な視野を備えた学生を育成するための「海外インターンシップ制度」の積極的な導入など、様々な新しい課題に挑戦しています。その他にも、世界トップレベルの戦略的研究拠点の形成、産学官連携事業等を通じた新実業の創出の先導、世界に開かれた国際水準キャンパスの構築など、オリジナリティに溢れた取組がなされています。

「世界リーディング・ユニバーシティ」になるという目標は、一朝一夕に実現できるものではありません。しかし、これからの進むべき道程を明確にし、東北大学が果たすべき使命及び活動を皆さまにご理解いただくとともに、多くの方々と共に挑戦していくことにより、社会から信頼、尊敬、そして愛情を得られる大学として人類社会の発展に貢献してまいります。



井上プラン

井上総長就任に伴って設置された総長室を中心に、2007年度を初年度とする東北大学アクションプランがとりまとめられました。このプランは人類社会への貢献という揺るぎなき姿勢をもって、「世界リーディング・ユニバーシティ」を目指した戦略実行プランを打ち出したものです。



2006年度のレポート

2006

- 4.1 国際高等研究教育院設置
 - 4.6 平成18年度東北大学入学式
 - 5.24 東北大学米国代表事務所開所(於:米国カリフォルニア州)
 - 6.22 東北大学pre-Centenaryイベント ~100周年を1年後に控えて~
 - 7.27 セイコーエプソン株式会社と組織的連携に関する協定締結
 - 7.27,28 オープンキャンパス
 - 8.2 東北大学100周年記念セミナー第6回(於:東京都)
「文明の危機とグローバルコミュニティの再生」
 - 9.25 東北大学学位記授与式
 - 11.6 井上明久新総長就任
 - 12.3 東北大学100周年記念仙台セミナー
「先端科学の挑戦 『健康で長生き』を目指して」
 - 12.4 東北大学藤野先生記念奨励賞授与式
 - 12.16 東北大学中国校友会設立(於:中国北京市 北京航空航天大学)
 - 12.26 河北新報社と連携・協力の基本合意
- ### 2007
- 1.13 東北大学100周年記念セミナー第7回(於:東京都)
「きれる子、無気力な子、挫折する子 - 親の力、教師の力、社会の力を考える - 」
 - 1.31 株式会社七十七銀行と組織的連携に関する協定締結
 - 2.8,9 日仏ジョイントフォーラム
“Lyon - Tohoku, Teaming for the Future” 2020年の科学・技術の姿(於:フランス リヨン)
 - 2.25,26 平成19年度東北大学一般選抜入学試験「前期日程試験」
 - 3.3 東北大学100周年記念『知の世紀』グローバル・サミット(於:東京都)
 - 3.6 DOWAホールディングス株式会社と組織的連携に関する協定締結
 - 3.12 平成19年度東北大学一般選抜入学試験「後期日程試験」
 - 3.27 東北大学学位記授与式

1	教育	『知の継承体』として、築き上げてきた知を教授する教育システムの再構築を図り、『知の創造体』を担う高度な教養、専門的な知識及び国際的な視野を備えた指導的人材を育成する。
2	研究	『知の創造体』として、戦略的独創研究と長期的視野に立つ基礎研究推進のために東北大学独自の最先端の研究体制の再構築を図り、世界トップレベルの研究成果を創出する。
3	社会貢献	「世界と地域に開かれた大学」として、東北大学の人的・知的資源を広く社会に還元して、人類社会全体の発展に貢献する。
4	キャンパス環境	『知の創造体』、『知の継承体』として本学が展開する多様な教育研究活動を支える国際水準のキャンパス環境を整備する。
5	組織・経営	『知の経営体』へと変革し、本学を取り巻く環境の変化や時代の要請に対応できる財政基盤をはじめとする経営基盤を確立する。